

新編相模國風土記稿 卷之五十

大住郡 卷之九 糟屋庄

真田村

W244

4



風土記稿卷之五十

大住郡卷之九

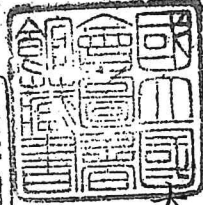
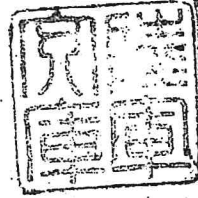
糟屋庄

真田村

落幡村

善波村

串橋村



51.12.23
1095733

笠窪村

白根村

神戸村

坪之内村

三之宮村

栗原村

上子安村

下子安村

新編相模國風土記稿卷之五十一

村里部

大住郡卷之十

糟屋庄

坂本村

附大山

日向村

新編相模國風土記稿卷之五十

村里部

大任郡卷之九

糟屋庄

真田村

佐奈駄
年良

江戸ヨリ十八里。真田郷ト唱フ。

往昔岡崎四郎義實ノ嫡子。與一義忠。

源平盛衰記。
義真ニ作ル。

此地ニ居城ニ。在名ヲ以テ氏トス。

城蹟アリ。下條
ニ載ス。按スル

東鑑。源平盛衰記。
等ニ。佐奈田ト書ス。北條彼帳ニ。小野某知行セシ

事見二。四野蹟。此内貫五百六十文。中郡真田今御料。

日下部作十郎延貞力。知行ナ及ヒ武田大膳大夫

日下部元文三年。知行ナセリ。及ヒ武田大膳大夫

寶曆十年。其地ヲ製テ先世主水。公セラレシ後岡

部小左衛門忠安。是モ日下部延貞力。知行ハ内ナ

賜フ。立花弁太郎。古ヨリ立花氏ノ來地ニテ。知

行シ。延享九年。御料トナリ。寛政。小林十郎左衛門

五年。先世吉之丞。拜賜ス。加藤三左衛門。元祿

年。先世右近。等知行ス。檢地ハ天正十九年。山中左

近。文祿三年。神尾備前守元勝慶長八年。青山

飛驒守。等糺セリ。民戸三十三。東西十八町。南

北四町。東大畑村。西南矢名村。南北金目。往還二條

一ハ伊勢原道。幅一丈。係ル。餘。一ハ大山道。幅一丈。

高札場六。小名宿。横町。寺尾。久保原。谷戸

坂六。寺尾坂。登半地藏坂。登一。天王臺。登三天左

衛門坂。登一。堂々坂。登二。谷戸坂。登一。等ノ字ア

り。

大根川 北境ヲ流ル。幅三間

牛頭天王社二 一ハ鎮守ナリ。例祭六月七日。社

領一石五斗ノ御朱印ハ。天正十九年十一月賜

へリ。拝殿神樂殿建リ。天徳寺持一ハ村民持。

未社 山王 大日 熊野 稻荷 地神

稻荷社 村民持。下同。

御嶽社

神明社

第六天社

天徳寺 萬種山ト號ス。曹洞宗。下總國國府本尊

如意輪觀音。傍ニ彌陀ヲ置。惠心作。長二尺。明和六年。當

寺ノ傳燈ヲ錄セシモノアリ。是ニ據ルニ。當寺

ハ。天徳元年。美濃國關縣鑄物屋庄ニ創建ス。開山

ノ名ヲ失フ。其後堂舎傾頽セシヲ。應永中。江州太守

六角源氏賴。法謚慈恩寺。雪江崇永。修補ヲ加ヘ。在仲宗者

寛正二年七月十四日卒。ヲ請テ始祖トス。五世學仲周カ時。

濃州ノ兵乱ヲ避テ。遠州掛川ニ移リ。兼安寺ヲ

開創ス。七世義翁盛訓ノ時。掛川亦擾乱ニ依テ。

當所字東坂來リ任ス。時ニ北條氏ノ臣。鈴木隼人

某。義翁ヲ歸重シ。真田義忠ノ城蹟ヲ寺地トシ

テ造立シ。按スルニ。古城蹟ヲ。寺地トセシハ。古

ナリ。其年代定カナラサレト。天正文祿。兩度ノ内ナルヘシト。土人云リ。義忠ノ靈

ヲ。真田明神ト祀リ。又天徳寺國華長運ト追謚

セリト云。故ニ義翁天正十四年五月六日卒ヲ中興開山鈴

木隼人天正二年六月廿日死。勝嶺長全ヲ中興

開基トス。慶安元年八月。寺領十一石ノ御朱印

ヲ賜ヒ。且境内制札ヲ賜ヘリ。真田義忠ノ木像

ヲ置。甲曹像。長二尺。位牌鬼簿等ニ。義忠カ郎黨二人ノ

法名ヲ載ス。一ハ智勝院保得鐵心。治兼四庚子。

アリ。一ハ義勝院一夢是迄。治兼四庚子。八月廿三日。腰卷文六事トアリ。按スルニ。城蹟ノ北ニ

腰卷ト云。字アリ。

鐘樓 鐘ハ寛永六年ノ鑄造ナリ。銘成揮那助

川隱岐守信忠。上野和泉推守信友。齋藤伊豫守直吉トアリ。其子孫今村民タリ。舊家條ニ載アリ。

白山社 天神。稻荷合祀ス。

真田與一義忠墓碑 高二尺三寸。方六寸。表ニ

捐館天徳寺真田吏君。國華長運大居士神祇。

左ニ。治承四庚子。八月廿三日。夜於石橋山平

裏ニ。桓武天皇之後胤。鎮守府將軍國香十代。

真田與市義忠之墓ト彫レリ。墳墓ハ足柄

下郡石橋村ニアリ。其餘ニ詳載ス。

松林寺 寺尾山ト號ス。天徳末本尊樂師。

塚 村西ニ四十塚ト稱シ。小塚數多アリ。其内大

高六尺許。又同方字大塚戸ニ二尺許。七鳥啼ニ三共

三尺許。石塚ニ七基。五ハ一町ニ在。則石塚ト呼フ。高六尺。二ハ少ク隔テ在高六

尺五寸アリ。共ニ由來ヲ傳ヘス。

真田城蹟 村ノ中程ニ在。東西五十三間。南北三十五間。四方ニ

堀ノ跡アリ。治承ノ昔真田與一義忠ノ居城ナ
リシト云。其後遙ニ星霜ヲ經テ明應四年大森

筑前守始信藤頼北條早雲ノ為ニ小田原城ヲ

攻落サレ當城ニ遁ル寛永系譜曰信濃守藤頼

四年北條早雲小田原ノ城ヲ破ル藤頼カ一族

同國真田ノ城ニ退キ居スル事已ニ三年ヲ歴

又小田原記曰西郡ノ住人成田ノ某大森ノ前

ニ來リテ敵已ニ山上ニ滿々夕リ用意ノ兵ナ

クテ叶フマシ急キ岡崎邊へ落サセ給ヒ重テ

軍兵ヲ催シ城ヲ取返スヘシ云々大将大森藤

頼ヲ初メ小具足計ニテ切合ケルカ深手アマ

籠ル引其後北條氏ト數度合戦アリシカ藤頼

遂ニ利ナクシテ一族悉ク當城ニテ滅亡ス寛

系譜曰小田原ト真田ト互ニ兵ヲ起シハシ

ハ挑ミ戦フト雖遂彼城ニ於テ一族北條カ為

サル廢城トナリシ年代ハ詳ナラス天正ノ頃

ハ既ニ廢シテ鈴木隼人某カ持地ナリ後天徳

寺境内トナレリ

舊家彌右衛門 陶山氏ナリ真田與一義忠ノ郎

等陶山文三家安治承四年八月廿三日石橋山

ノ役ニ義忠ト共ニ討死ス事

ハ足柄下郡米神村。家ノ子孫ニテ。代々連綿ス
安墳墓條ニ詳載ス。
ト云。家系等ノ證トスヘキ物ハ傳ヘス。又村民
忠左衛門モ家安カ子孫ナリト云傳ヘ。其居所
ヲ。家老屋鋪ト字ス。是モ家系ハ傳ヘス。

同八兵衛 上野氏ナリ。先祖ハ北條氏ノ臣。鈴木
隼人ト稱ス。天徳寺開基ナリ。卒年寺ノ條ニ記ス。其子大藏ノ時。

上野氏ニ改ム。天徳寺寛永六年ノ鑄鐘ニ助成

檀那。上野和泉權守信友ト載セタルハ。則世代
ノ内ナリト云。

同道績 市川氏ニテ。醫ヲ業トス。先祖ハ早瀬川

市正影充ト稱シ。河内國ニ住ス。應徳二年七月二十日死。其

後數世ヲ経テ。多門重房ノ時ヨリ。市川ヲ稱號

トセリ。當所移住ノ年代。詳ナラス。天徳寺大鐘

ニ市川隱岐守信忠トアルハ。則先世ナリト云

傳フ。此他大鐘ニ彫タル齋藤伊豫守直吉カ子

孫モ。今ニ村民八郎左衛門ト稱ス夕リ。